そこでこの岩波訳の考えを補わなくてはならないが、その前にクルアーンに於いて復活ということがどのようにみられているのかをおおまかにみておこう。

人間以外の生命体のよみがえりについてはクルアーンには何の記述もない。しかしアッラーは万能であることがひんぱんにうたわれているので、もしお望みとあればよみがえされるであろうが、ともかく人間以外の生物の復活というようなことはクルアーンでは全く触れられていないのである。無生物はどうかといえば、例えば天と地という表現で、お望みとあれば、アッラーは今ある天地をとり去って全く別の新しい天地をそなえ給うであろうというような記述が見出される。今あるのと全く同じものを再びそなえるなどという記述は見出されない。いずれにしろアッラーは万能で、お望みなら何でもなさるという前提のもとで、しかしクルアーンの記述に於いては、無生物の復活に関してはその同一のものの復活ということは述べられてはいないこと、人間以外の生物に関しては復活そのものが述べられていないこと、人間に関してはその同一

復活は大部分が人間について言われている。